

1 教科について

国語

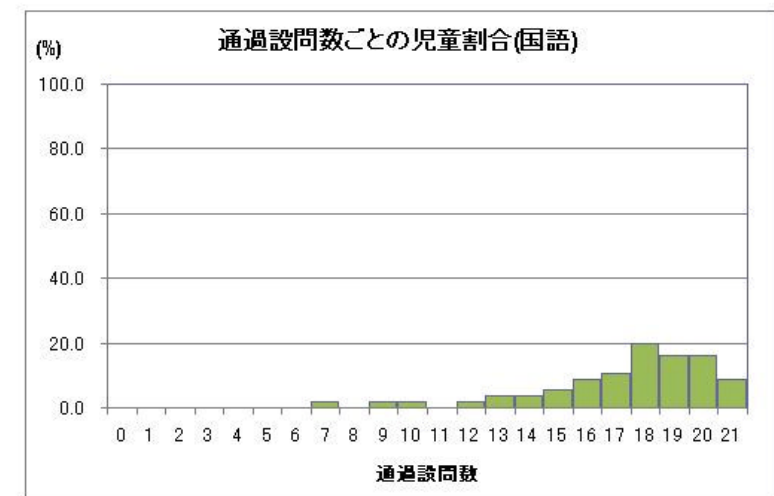
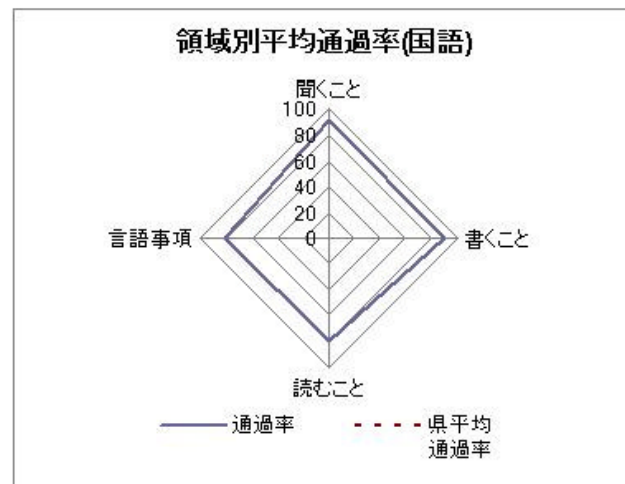
昨年度の課題

- ◎ ローマ字の書き, 漢字の読みに課題がある。
(通過率はそれぞれ60%, 68.9%)
- ◎ 話の全体の要点を聞き取ることに課題がある。
(通過率は46.7%)

昨年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事項

- ① ローマ字を書いたり, 漢字を読んだりすることを, 計画的に取り組ませ, 定着を図る。
- ② 国語, 朝の会, 平岩タイムなどの時間を使って, 話の要点, 主題を聞き取ることを意図的に取り入れる。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 82.7% 県平均 78.5%



重点課題 ◎ : 「基礎・基本」定着状況調査
◇ : 全国学力・学習状況調査

- ◎ 3年の漢字の読み(通過率64.3%), 3年の漢字の書き(73.2%), 漢字の構成(62.5%), 主語・述語の関係(71.4%)に問題がある。
- ◎ 読むことの場面の移り変わりや情景の想像(通過率60.7%), 段落相互の関係(69.5%)に課題がある。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 前学年の漢字だけでなく, 3学年の漢字の練習も計画的に取り組ませ, 定着を図る。
- ② 主語, 述語の文法的な理解については, もう一度第2学年の内容に戻って, くわしく指導する必要がある。そして, 高学年の難しい文章の中から主語・述語を抽出する練習をするなどして, 習熟をはかる。
- ③ 読書量を増やし, 読解力, 語彙力を高める必要がある。意図的・計画的に読書紹介をする場面を設定したり, 教師が読み聞かせをしたりして, 読書意欲を喚起させる。読書貯金カードに記録し, 読書の足跡を残すとともに, 継続的に読書をする習慣をつける。
- ④ 説明文の読み取り練習をし, 段落の構成の理解を深める。

来年度の目標値

- ① 全体の通過率が県平均78.5%に対して学校平均が82.7%であるが, 来年度も県平均よりも上回ることを目指す。
- ② 読むことの場面の移り変わりや情景の想像については, 通過率60%以上の児童の割合を70%にする。通過率30%未満の児童の割合を0にする。

指導方法等の改善計画について

算 数

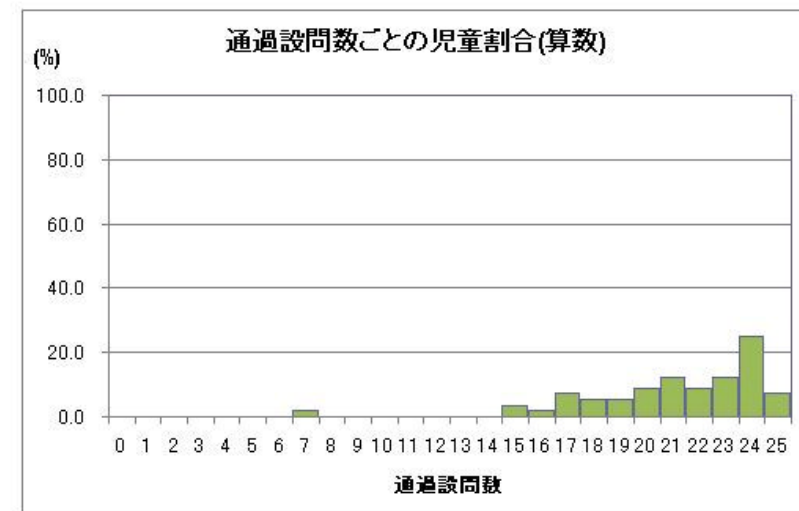
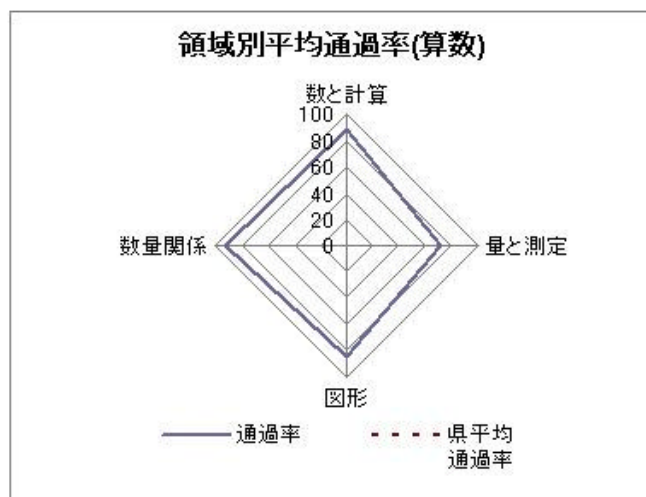
昨年度の課題

- ◎ 「図形」の通過率が非常に低く、特に直角三角形の作図、ひし形の判断ができていない。(作図の通過率44% ひし形)
- ◎ 「数量関係」の通過率が低く、伴って変わる数量の立式ができていない。(立式の通過率24.4%)
- ◇ 数量を等分したものを分数に表わす通過率が非常に低い。

昨年度の課題を受けて 具体的に取り組んだ事項

- ① 「図形」の定義や活用した練習問題を、算数や平岩タイムを使って反復練習し、定着させる。家庭学習で計画的に取り組む。
- ② 「数量関係」の応用問題を取り組み、立式について理解を深めていく。
- ③ 「数と計算」の分数の意味、計算の反復練習をし、定着させる。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **84.7%** 県平均 **77.8%**



重点課題 ◎: 「基礎・基本」定着状況調査 ◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎ 「複合図形の面積」の通過率が低く、変形図形の求積が定着していない。
- ◎ 「およその重さ」の通過率が低く、実際の重さを感覚として捉えることができていない。
- ◎ 「長方形の判断」の通過率が低く、長方形の特徴をつかんでいない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 変形図形の問題に取り組み、正しく求積することができるよう、平岩タイムや宿題で扱うことで、学習内容が定着するようにする。
- ② 「重さ」や「かさ」「広さ」など実際の感覚を必要とする内容については、理科や社会とも結びつけ、実感として捉えさせるようにする。
- ③ 既習の様々な形の違いや特徴を捉えさせるために、掲示を工夫して視覚で捉えさせるようにする。

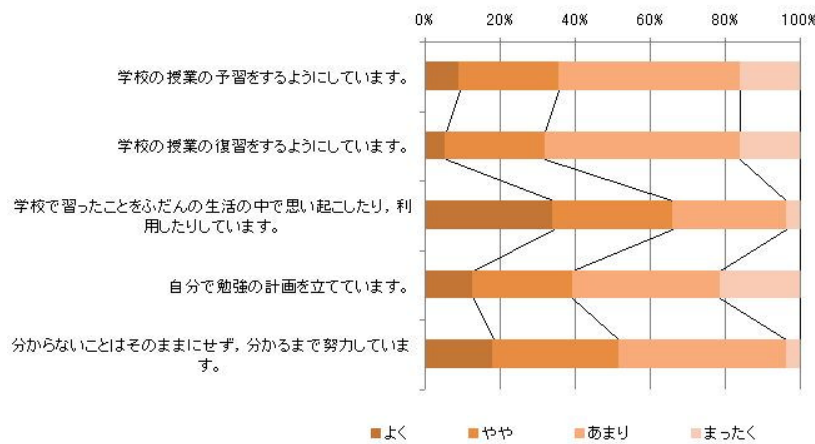
来年度の目標値

- ① 全体の通過率が22年度77%から84.7%に上昇している現状を踏まえて現状維持を目指す。
- ② 図形の問題に取り組み、通過率を今年度より5%以上上げる。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

(1) 生活・学習

学習習慣

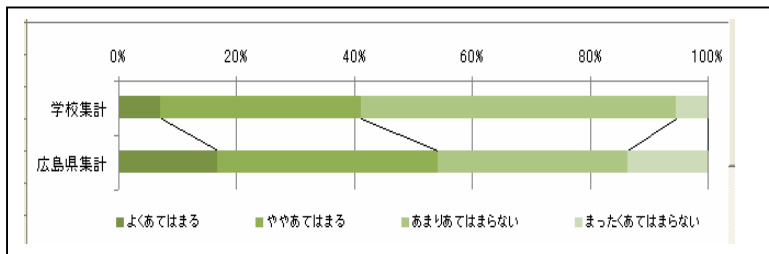


改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎出された家庭学習はできるが、自分から進んで復習や予習をする習慣ができていない。 ◇学校の授業時間以外の勉強時間が、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間未満の児童が約4分の1いる。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習（計算ドリルや漢字練習・本読み）以外にも、復習や予習をする習慣を形成していく。 国語，算数の他にも，理科や社会の予習・復習を含めた学習も定着させるようにする。

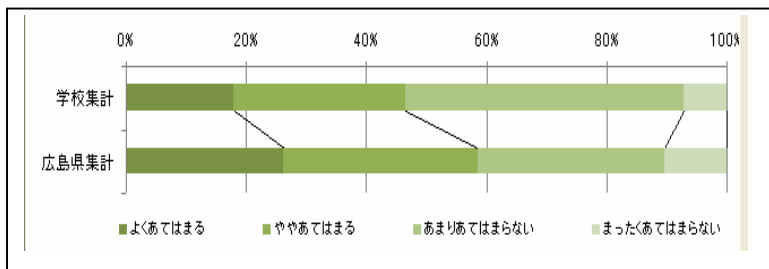
来年度の目標値	目標値
	○課題がある領域の学習習慣や学習意欲について，本年度より5ポイント以上改善する。

(2) 教科

国語の授業を楽しみにしています。



算数の授業では、理由をあげて自分の考えや解き方を説明している。



	児童の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎「国語の授業を楽しみにしている」と回答した児童は，約4割しかいない。 ◇国語の授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫している児童は，約4割しかいない。	<ul style="list-style-type: none"> 国語の教材研究をしっかり行い，授業が楽しく，待ち遠しくなるような授業を仕組む。 話型を教室に掲示しながら，発表メモ，構成メモなどを書いて発表するような授業を仕組む。
算数	◎算数の授業では，理由をあげて自分の考えや解き方を説明していると答えている児童が，約4割しかいない。 ◇「算数が好きである」という児童は，54%しかいない。	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業の中で，言語活動を取り入れた展開を工夫し，説明する活動を多く仕組む。 授業で，少人数や習熟度を取り入れ，「できた」「わかった」という成就感・達成感がもてるような日々の授業を工夫していく。

来年度の目標値	目標値
	<ul style="list-style-type: none"> 課題がある領域の学習習慣や学習意欲について，本年度より5ポイント以上改善する。 重点課題に挙げた国語の発表の組み立てを工夫する児童の割合及び算数好きの児童の割合を20ポイント高めていく。

指導改善のための実施スケジュール

	～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
	Plan		Do		Check		Action		Check	
						検 証				
							次年度の計画			
【教科】	<p>〈読書タイム・読書活動の充実〉 読んだ本の一言感想を書かせ、要点をつかませる。読書量を増やす。</p> <p>〈読書活動の振り返り〉 主題や要点を振り返って書く活動を取り入れる。</p>									
国 語	<p>〈平岩タイム（朝学習）の充実〉 ローマ字、漢字、主述の関係をとらえる学習</p>		<p>〈ことばタイム〉 〔再話〕の取り組みで、要点の聞き取りの学習</p>			<p>〈平岩タイム・家庭学習〉 ドリルなどを用い、「読解力」「指示語」について学習</p>				
	<p>〈授業改善〉 〈授業・朝の会〉 予め構成メモなどを書いて発表させたり、慣れたらメモを見ずにスピーチしたりできるようにする。 言語事項の重点指導・話の要点や主題を聞き取る活動を取り入れる。</p>									
算 数	<p>◎ 〈個に応じた指導〉・習熟度別を取り入れた学習活動を展開する。（習熟度別プリントの作成、ワークシートの工夫等）</p> <p>〈平岩タイムの充実〉 図形領域の復習</p> <p>数量関係・数と計算の領域の復習</p> <p>量と測定領域の復習</p> <p>〈磯松中学校区小中連携での情報交換〉・基礎基本部会での取り組み</p>									
【意識調査】	<p>◎授業中の肯定評価を行いながら、学年・学級通信や学級懇談・三者懇談等で、保護者に児童が努力した過程を評価し全体的に伝えていき、自己有用感や効力感を育てていく。</p> <p>◎学年通信、懇談会等で『ひろしま』学びのサイクルについて保護者の理解と協力を得るとともに、家庭学習における予習・復習が授業に反映されるよう指導の工夫をする。</p>									
生活・学習	<p>読書タイムを活用しながら、本に親しませ、表現の幅を広げるとともに、一言感想などを書かせ、要点をつかませる。「ドリムランド王」として読書量の多い児童を評価し読書意欲を高めていく。</p> <p>「読解力」「指示語」「主語・述語」「ローマ字」の練習を重ね、習熟を図る。「ことばタイム」の活用</p> <p>◎漢字の読み・書きについては3年生に遡って行う。家庭学習などで辞書の使い方の習熟を図る。</p>									
国語	<p>◎教材教具を工夫して、分かりやすい楽しい授業をし、「できた」「わかった」など達成感・成就感が持てるよう授業研究や保護者アンケートを行ったりしながら、授業改善を行う。</p> <p>本年度の基礎基本の定着状況調査でつまづきの多かった領域を分析し、多面的にとらえ、教材開発を進めるとともに、家庭学習と連動させる。</p>									
算数										

凡例;◎印は、本年度、新たに加わった取組